



P-33 : 高さ 2m 超の礫岩の露頭。岩は比較的硬く CM 程度である。



P-34 : 崩壊の中腹部。側部の形状はやや不明瞭である。堆積土砂は厚いものと思われる。



P-35 : 崩壊の下部で湧水が確認される。



P-36 : P-21 の湧水が伏流し市道の法尻で再び湧出する。



P-37 : 計画では平場の予定である。岩盤は比較的浅部に分布していると思われる。



P-38 : 計画では平場の予定である。先方は採石場跡である。



P-39 : 20cm 角程の転石。礫岩。



P-40 : 礫岩の大露頭。CL-DH。下段ポール下方にたまっている岩塊は、後背から分離・落下したもの。



P-41 : 礫岩は CL-DH。風化が進んでおりハンマー打撃により容易に碎ける。



P-42 : 20cm 幅の開口がある亀裂。樹木の根が入り込み、開口の進行を助長している。
層理面は N75E 72N。



P-43 : 露頭の上層。φ10cm 程度までの円摩した礫が多く混入する。



P-44 : P-21 の下位。礫岩であるが、礫の混入は非常に少ない。写真左下は薄層状に礫を挟む。このように礫岩の中でも礫の混入率は変化している。



P-45 : 作業道沿いに露頭を確認することができる。



P-46 : 礫岩。φ10cm 程までの硬質な礫を混入する。基質は風化による土砂化が進んでおり、容易に削れる。DH。



P-47 : 谷部の崩壊跡。



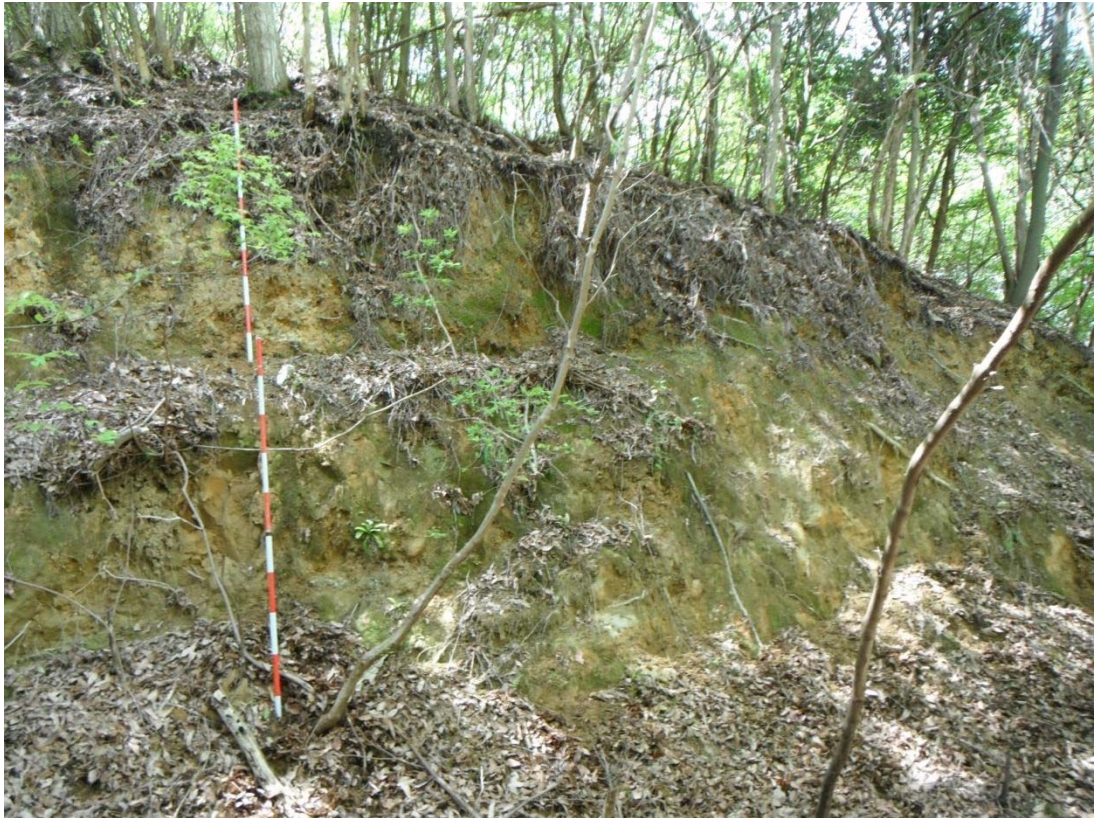
P-48 : シルト岩の露頭。低角な層理面がある。N50E 8S。シルト岩は固結度が低く、容易に崩れる。DH。



P-49：谷部の崩壊跡。滑落崖に岩盤は確認されない。



P-50：谷部の崩壊跡。滑落崖に岩盤は確認されない。



P-51 : シルト岩が優勢な露頭。砂岩・礫岩を挟む。低角の層理面がある。



P-52 : シルト岩。固結度が低く、容易に崩れる。DH。



P-53 : 谷部の小崩壊。



P-54 : シルトと砂の中間的な岩。低角な層理面がある。



P-55 : CM の硬質な礫岩。露頭から分離しつつある。



P-56 : 直壁状の礫岩露頭。風化を受けておりピックハンマーで削ることが可能である。



P-57 : P-56 の近景。岩級は CM-CL。



P-58 : 直壁状の露頭から落下したと思われる転石。1.8m×1.2m 程度。CM。転石の数自体は少ない。



P-59 : 直壁状の露頭。礫岩。岩級は CM-CL。



P-60 : 露頭上方に開口亀裂が発達しており、ブロック状に分離が進行している。



P-61 : 堆積土砂が厚いと思われる緩傾斜の凹型斜面。斜面の下方部には湧水が浸みだしており、湿地状になっている。



P-62 : P-61 の側方部。露頭等は確認されない。



P-63 : 北向き斜面は、急傾斜を呈しており、多くの露頭（片麻岩）が確認できる。



P-64 : 節理面の発達した塊状の片麻岩。CM 級。



P-65 : 節理面の発達した塊状の片麻岩。珪質で硬質である。CM 級。節理面は N40W 70S、N80E 52N、N35E 60S。



P-66 : 擁壁工～切土の境界区間付近。古い崩壊跡があり、堆積土砂が被覆している。